

「第15回近畿圏交流試合」結果報告

3月27日(日)京都市武道センター弓道場において、「第15回近畿圏交流試合」が行われました。この大会は近畿2府3県各3校(和歌山県は不参加、地元京都は5校)と福井県1校の男女各18校が参加しました。予選2立40射の合計で上位4校が決勝トーナメントに進出します。あくまで練習試合ですが、各府県の強豪校が集まる試合であり、また5人団体の試合ということで、インターハイに向けて大変貴重な大会となります。本校は、この大会初めての出場です。

先週中日本大会があったばかりで、またこの大会が練習試合ということもあり、各校ともインターハイを想定しての真剣勝負と捕らえる学校もあれば、控えの選手を出場させ経験をつませることを目標にしている学校もあつたりと、いろいろな思いが入り混じった大会だったようです。本校も、6月のインターハイ予選を見据えて今まで出場経験のない1年生を優先して出場させました。結果は1立目7中、2立目10中、合計17中でした。3人団体的の中かと思ってしまうほどの低的中での完敗でした。いくら経験をつむことが目標だと言っても、先週の中日本大会とあわせてあまりにも情けない中です。

◆この悔しさを忘れるな！

この大会で、平成27年度の主な大会は終了です。最後の「中日本大会」と「近畿圏交流試合」は、部員全員が試合を経験するという一番の目的としていましたが、結果が悪かったことの言い訳にはなりません。完全な力不足、完敗を受け入れなければなりません。また、他の大阪の学校はしっかり結果を出して上位入賞を果たすなか、本校だけが“蚊帳の外”という惨めな思いも味わいました。本当に悔しいです。

昨年、私学大会で屈辱的な敗戦を喫して、その悔しさを新人戦にぶつけて結果を出したように、今回まったく歯が立たず完敗した事実をしっかり受け止め、悔しい気持ちを忘れず、これからの練習に生かさなければなりません。部員一丸となって、これから頑張っていきたいと思います。

「試合での悔しさは、試合でしか晴らせない！」



「できない、もうこれでいい。やるだけやった、と言うな。」

「これでもやり足りない、いくらやってもやり足りないと思え。」